

株主通信

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌
2013年 春号

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

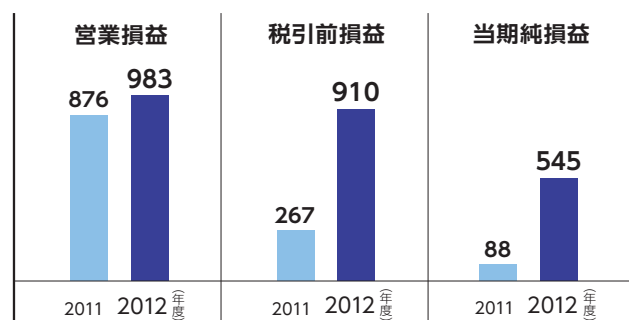
株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素のご支援、ご愛顧に厚く御礼申し上げます。

2012年度第3四半期累計期間(4-12月、以下当期)における当社グループの売上高は、社会インフラ部門が大幅な増収を達成しました。これは、国内外の火力発電システムや海外の原子力、昇降機、医用システムなどの好調に加え、ランディス・ギア社*など社会システム関連も堅調に推移したことによるものです。家庭電器部門は、前年同期比でほぼ横ばいでしたが、デジタルプロダクツ部門、電子デバイス部門は減収でした。全体としては、液晶ディスプレイの事業譲渡(2012年3月)の影響もあり4兆430億円(前年同期比3,109億円減)でした。

*通信機能を備えた次世代電力量計の世界最大手

第3四半期累計期間(4-12月)連結決算概況(単位:億円)



※本株主通信では、「継続事業税引前損益」を「税引前損益」として表示しています。

※米国会計基準により「当社株主に帰属する四半期純損益」を当期純損益として表示しています。

損益は、第3四半期(10-12月)での大幅な改善により、営業損益が983億円(前年同期比107億円増)、税引前損益が910億円(前年同期比643億円増)、当期純損益が545億円(前年同期比457億円増)と、当期としていずれも増益を達成することができました。

部門別営業損益では、社会インフラ部門において、第2四半期累計期間(4-9月)に続き国内外の火力発電、系統・変電、太陽光発電、医用システムなどが増益で、当期も過去最高益の647億円を達成しました。なお、ウェスチングハウス社による中国での原子力プラント向けAP1000®4基に加え米国での4基の建設が本格化し、ランディス・ギア社も順調に受注を伸ばすなど、買収による事業構造転換も順調に収益に寄与しております。電子デバイス部門では、システムLSIの構造改革効果に加え、NAND型フラッシュメモリの需要増加や年度前半のストレージ(記憶装置)の好調などにより、部門全体で557億円でした。なお、第3四半期におけるNAND型フラッシュメモリは、生産調整の効果および、高付加価値製品の販売増に注力した結果、大幅増益を実現しました。これらは、『トータル・エネルギー・イノベーション』『トータル・ストレージ・イノ

本株主通信は2012年12月末時点での株主のみなさまにお送りいたしますことをご了承ください。

ベーション』を軸に事業構造改革・事業構造転換を加速させ、企業向け事業に重点を置いたポートフォリオ(事業構成)に転換したことにより、着実に収益体質を強化してきた成果であると考えます。

通期業績につきましては、現在の業績計画達成に向けて、全社一丸となって全力を尽くしてまいります。

剰余金の配当(期末)につきましては、株主のみなさまのご期待に応えるべく業績動向をふまえて決定してまいります。

株主のみなさまには引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

2013年3月



代表執行役社長

佐々木 剛夫

証券コード 6502

2012年度第3四半期累計期間(4-12月)の連結決算概要

2012年度第3四半期累計期間の連結決算の詳細は、

東芝ホームページの投資家情報 ➡ IRイベント ➡ 決算説明会でご覧いただけます(説明会動画も視聴できます)。

2012年度第3四半期

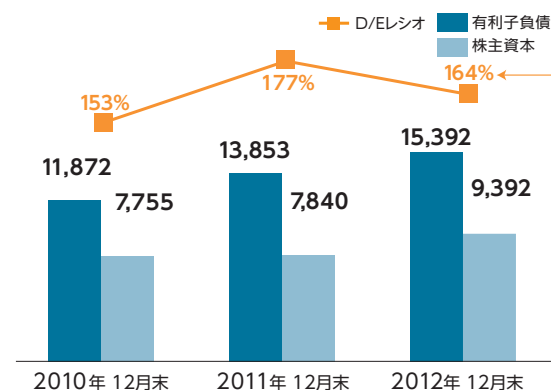
累計期間(4-12月)連結業績(単位:億円)

	2011年度	2012年度
売上高	43,539	40,430
営業損益	876	983
税引前損益	267	910
当期純損益	88	545
為替換算レート (円／ドル)	79	80
(実績) (円／ユーロ)	112	102

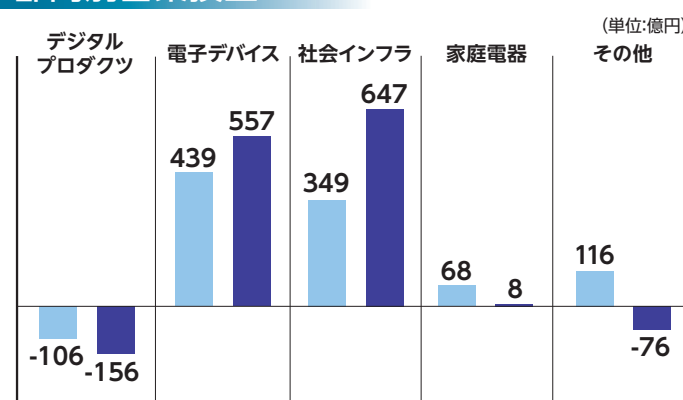
2011年7月に買収したランディス・ギア社に関する取得金額の資産および負債への配分完了に伴い、2011年度第3四半期累計期間および通期の数値を一部遡及的に組み替えて表示しています。

D/Eレシオ

(デット・エクイティ・レシオ:有利子負債/株主資本)



部門別営業損益



デジタルプロダクツ

■ 液晶テレビは、第3四半期で前年同期比改善したものの国内の需要が減少。パソコンも販売が減少し、部門全体で減益

■ 流通・事務機器は、IBM社からのリテール・ストア・ソリューション事業買収効果などにより増収増益

電子デバイス

■ システムLSIの構造改革効果に加え、NAND型フラッシュメモリの需要増加や年度前半のストレージ(記憶装置)の好調などにより、部門全体で増益

■ 第3四半期のメモリは、生産調整の効果および高付加価値製品の拡大などにより、大幅増益

社会インフラ

■ 火力発電システムが好調で、海外の原子力も堅調に推移し、太陽光発電、系統・変電、エレベーター、医用システムなども増収増益となり、過去最高益を達成

家庭電器

■ LED照明が増益となったものの、白物家電の減収の影響により、部門全体で減益

部門別営業損益の「その他」には、主な事業として物流サービスなどがあります。また、部門間消去は2011年度10億円、2012年度3億円です。

2012年12月末のD/Eレシオは、IBM社 リテール・ストア・ソリューション(RSS)事業買収の戦略的投資による増加および会社分割後の東芝ファイナンス(株)を連結子会社化したことによる増加を含みます。

2012年度連結業績計画(単位:億円)

2012年10月31日発表の見通しを変更しておりません

部 門		2011年度 実績	2012年度 計画
売上高	デジタルプロダクツ	16,610	15,400
	電子デバイス	14,369	13,200
	社会インフラ	24,128	27,100
	家庭電器	5,768	6,500
	その他	5,063	3,300
	消去	-4,935	-4,500
	連結計	61,003	61,000
営業損益	デジタルプロダクツ	-272	50
	電子デバイス	754	800
	社会インフラ	1,291	1,800
	家庭電器	57	100
	その他	177	-100
	消去	20	-50
	連結計	2,027	2,600
税引前損益		1,456	1,900
当期純損益		701	1,100

2012年10月に行ったデジタルプロダクツ部門から社会インフラ部門へのサーバー関連事業の移管に伴い、2011年度実績を組み替えて表示しています。

トピックス

中国三門原子力発電所1号機の原子炉格納容器の上蓋の設置完了

当社の子会社ウェスチングハウス社は、2009年から建設を進めている中国浙江省三門原子力発電所1号機(以下、三門1号機)の工事において、原子炉圧力容器や蒸気発生器などの主要機器の格納容器内設置を経て、原子炉格納容器の上蓋(約659トン)の設置工事を国家核電技術公司などとともに完了しました。現在、残りの工事を継続中で2014年に発電を開始する予定です。

次世代型加圧水型原子炉「AP1000®」は、世界で初めて三門1号機で採用され、建設を開始しました。現在、中国では三門発電所と海陽発電所にて各2基、米国ではボーグル発電所とV.C.サマー発電所にて各2基、合計8基の建設工事が同時に進行中です。



米国ゼネラル・エレクトリック(GE)社とコンバインドサイクル発電システム分野における戦略的提携関係を構築

本年1月、当社はGE社とコンバインドサイクル発電システム分野での戦略的提携関係の構築に関する覚書を締結し、グローバル市場で販売協力を行うことを決定しました。本提携は、両社の強みによる補完関係・相乗効果の創出によりグローバルにコンバインドサイクル分野での事業展開を図ることを目的としています。



コンバインドサイクル発電用蒸気タービン

中近東地域の事業拡大のため医用システム事業のトルコ国現地法人を設立

東芝メディカルシステムズは、本年1月、トルコ国TMST Tibbi Sistemler Pazarlama Ticaret ve Servis社の株式取得の契約を締結しました。今後必要な許認可等を完了後、本年3月に当社グループ会社として営業を開始します。今後、トルコを中心とした中近東地域における販売拡大をめざし、グローバル事業展開のための基盤強化を図ります。



トルコ国現地法人

世界最高変換効率のモジュールを採用した住宅用太陽光発電システムを発売

住宅用太陽電池として世界最高*1となる最大モジュール変換効率20.1%を実現した250W太陽電池モジュール(米国サンパワー社製)を採用した住宅用太陽光発電システムを2012年12月から発売しています。面積あたりの発電量が多いため、設置面積の省スペース化が図れ、同じ面積の屋根に設置した場合、一般的な発電効率の太陽電池モジュールに比べ年間約50%も多く*2の発電量が得られます。

*1 2012年12月5日現在、当社調べ。

*2 日本国内において流通している代表的な住宅用多結晶太陽電池モジュールの平均効率を用いて算出した値。
(*1と同日現在、当社調べ)



二次電池SCiB™搭載の蓄電池システムが株式会社大京の本社ビルに採用

当社製リチウムイオン二次電池SCiB™を搭載した定置用蓄電池システム「スマートバッテリー」を中心とし、太陽光発電と連携して発電量や蓄電残量などの情報を「見える化」する管理機能を組み合わせたシステムが、2012年12月に株式会社大京の本社ビルに採用されました。今後、大規模オフィスビルから小規模店舗向けなど、お客さまの利用環境に応じたシステムソリューションを提供していきます。

リチウムイオン蓄電システム



東芝製リチウムイオン電池SCiB™を搭載

日本企業として初めて欧州で直流送電システム建設工事を受注

当社グループは、イタリアの送電会社テルナ(TERNA)社から、同国とモンテネグロ国を結ぶ約400kmの海中送電網において両国に建設する直流変換所の変電設備や工事一式を受注しました。変電設備は2015年4月から順次納入する計画です。今回の受注は、当社が2011年3月に買収した旧アンサルドT&D社との共同提案活動により実績と信頼性が評価され実現しました。



2012年12月 契約調印式

トピックス

ストレージ(記憶装置)の新製品と受賞

データセンターやサーバーなどのストレージシステムに記録されるデータ量の飛躍的な増加に対応するため、業界最大クラス*1となる4テラバイトの記憶容量を持つニアライン*2HDD(ハードディスクドライブ)のサンプル出荷を2012年12月から開始しました。

2012年秋から出荷を開始したハイブリッドドライブ(NAND型フラッシュメモリ搭載HDD)は、米国で「ヴィジヨナリ・プロダクト賞」を受賞しました。この賞では、先見性があり、高性能と大容量を同時に実現している技術を高く評価されました。



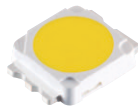
イメージ

*1 2012年11月時点、当社調べ

*2 サーバーで頻繁にアクセスさせる「オンライン」ストレージよりもアクセス頻度は少ないが大容量データを記録できるストレージ

照明用の白色LEDの発売を開始

当社は、白色LEDを製品化し、2012年12月から量産を開始しました。新製品はシリコンウェハー上にガリウムナイトライドを結晶成長させるLED素子*1を採用しました。近年、白色LEDは照明や液晶テレビのバックライト*2向けなど、様々な用途での使用が拡大しており、市場規模は2011年度の7,000億円から2016年度には1兆2,500億円に成長すると予測されています(当社調べ)。当社は、同年度には10%の市場シェアをめざします。



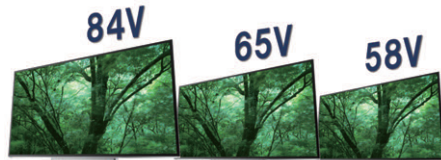
照明用白色LED

*1 米国・ブリッジラックス社と共同開発

*2 裏面に配置された光源

米国家電見本市2013 International CES*1で大型4K対応テレビを3機種発表

当社の大画面高画質4K対応テレビを58V型、65V型、84V型の3機種で展示しました。日本を皮切りにグローバルで本年春以降の発売を予定しています。なお、米国でも本年春からテレビ向け新クラウドサービス*2を開始する予定です。



*1 コンシューマー・エレクトロニクス・ショー

*2 インターネット上のデータ処理・管理によるサービス提供

裏面照射型CMOSイメージセンサー*1に注力

当社は、スマートフォン、タブレット向けに解像度が13メガピクセルの裏面照射型(BSI)CMOSイメージセンサーを開発しました。現在サンプル出荷中で本年5月から量産を開始します。加えて、コンパクトデジタルカメラ向けに1/2.3型の撮影素子サイズで業界最高解像度*2となる20メガピクセルのBSI製品を開発し、本年の夏から量産を開始します。いずれの製品も、2015年度には市場シェア30%をめざします。

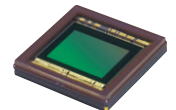
*1 光を電気信号に変換する半導体集積回路。裏面照射型は、受光部が配線層で減衰しないよう裏面から光を入れる設計・加工技術を用いる

*2 1/2.3型の撮影素子サイズにおいて。2012年12月26日現在。当社調べ

CMOSイメージセンサー



スマートフォン・タブレット向け



コンパクトデジタルカメラ向け

第16回「環境経営度調査」製造業総合1位を獲得

当社グループは、1997年から毎年実施されている日本経済新聞社主催「環境経営度調査」において製造業総合1位(1,730社を対象)を獲得しました。この調査では「環境経営推進体制」「汚染対策・生物多様性対応」「資源循環」「製品対策」「温暖化対策」の5視点で評価、順位づけされますが、全ての項目で高得点を取得し、総合的に高く評価された結果です。

また、環境省及び(財)地球・人間環境フォーラム主催「第16回環境コミュニケーション大賞」で、東芝グループ環境レポート2012が「環境報告大賞」(環境大臣賞)を受賞しました。



投資家情報サイトの充実(www.toshiba.co.jp/about/ir/)

2012年11月、大和インベスター・リレーションズ(株)の「2012年インターネットIR表彰」(対象:3,593社)で昨年に続き最優秀賞(4社)に選定されました。今回から始まった英語サイトの評価でも「特別賞(6社)」を受賞しました。また、日興アイ・アール(株)の「2012年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」(対象:3,570社)でも総合2位を受賞しました。投資家情報サイトでは、決算説明会の動画や最新のIRニュース、リアルタイムの株価などを見ることができます。

なお、株主通信もホームページの特性を生かして、企業情報をタイムリーに発信したり、記事に関連したページへのリンクなどにより情報量を拡充するなど、今後は電子版をより充実させていきますので、ぜひご活用ください。

投資家情報サイト上の 配信中動画



※スマートフォンからも閲覧できます



株式事務についてのご案内

株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502

ご意見・資料請求は株式会社東芝 広報室あてにお送りください。

投資家情報サイト <http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

株式会社 **東芝** 〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL (03)3457-4511(代表)

本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と異なることがありますことをご承知おください。